

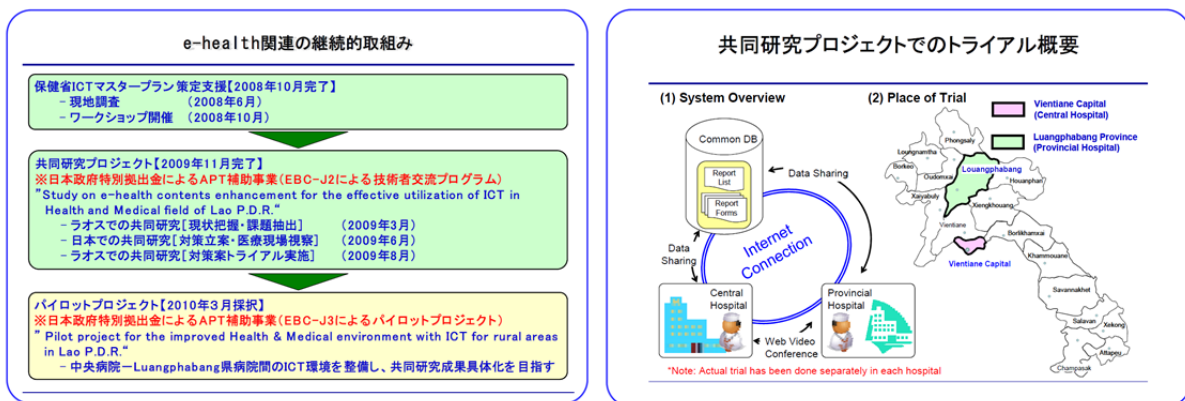
ラオスにおける ICT 利活用促進に向けた e-health 関連の取組み

1. 取組みの背景

ラオス人民民主共和国は ASEAN（東南アジア諸国連合）の中でも開発が遅れている国の一つであり、ICT 活用によって 2020 年までに後発開発途上国 (LDC: least developed country) からの脱却を目指しています。しかしながら、ICT 整備状況は 154 カ国中 117 位 (ITU ICT Development Index 2009) に留まっており、その整備が、国を挙げての重要課題の一つとなっています。

2. 取組み状況

JTEC はラオス国において、2008 年 1 月に総務省の調査研究として「ICT マスタープラン調査」を実施しました。この調査を通じ、省庁別 ICT マスタープラン策定の必要性を強く認識した保健省（及び関係省庁である科学技術庁・郵電通信庁）からの要請を受け、三省庁連携による『保健省 ICT マスタープラン策定』を JTEC 独自の施策として支援することとなり、これを契機とする e-health 関連の具体的取組みを継続的に進めています。



JTEC は、豊富な経験・ノウハウを活かした調査・研究・コンサルティング活動を通じ、情報通信インフラの整備に加え、その利活用を含めた“相手国の要望にマッチする ICT 環境改善”への取組みを積極的に進めています。



トライアル模様
(Luangphabang 県病院)